

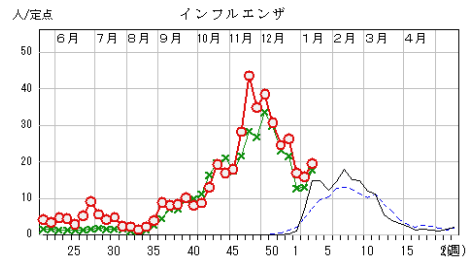
長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2024年第3週 2024年1月15日（月）～ 2024年1月21日（日） 2024年1月25日作成

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

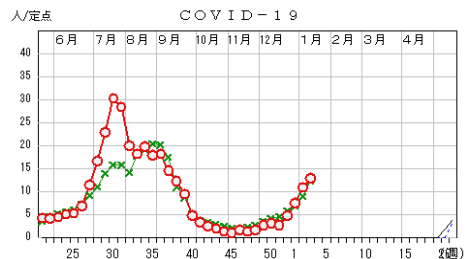
（1）インフルエンザ

第3週の報告数は1372人で、前週より265人多く、定点当たりの報告数は19.60であった。
 年齢別では、10～14歳（250人）、15～19歳（117人）、7歳（101人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（30.00）、県央保健所（26.82）、壱岐保健所（25.33）であった。



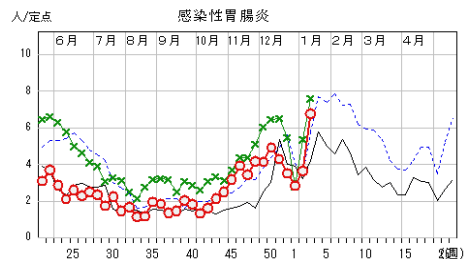
（2）新型コロナウイルス感染症

第3週の報告数は908人で、前週より145人多く、定点当たりの報告数は12.97であった。
 本調査における年齢別では、10～14歳（117人）、50～59歳（78人）、60～69歳（76人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（20.50）、県央保健所（16.09）、長崎市保健所（15.18）であった。



（3）感染性胃腸炎

第3週の報告数は298人で、前週より137人多く、定点当たりの報告数は6.77であった。
 年齢別では、1歳（49人）、2歳（41人）、10～14歳（37人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（23.00）、佐世保市保健所（12.00）、県央保健所（9.14）であった。



○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
 × 当年(全国) - - - 前年(全国)

☆上位3疾患の概要

【インフルエンザ】

第3週の報告数は1372人で、前週より増加し、定点当たりの報告数は19.60となりました。警報レベル終息基準値「10」を上回っており、9週続けて警報レベルを超えた状態が継続しています。地区別では、県北地区（30.00）、県央地区（26.82）、壱岐地区（25.33）、対馬地区（25.00）、県南地区（21.38）、長崎地区（20.12）、上五島地区（17.67）は、警報レベルを維持しています。また、佐世保地区（14.18）、西彼地区（13.83）は注意報レベル基準値「10.0」を超えています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第3週の報告数は908人で、前週より145人多く、定点当たり報告数は12.97でした。地区別では、県北地区（20.50）、県央地区（16.09）、長崎地区（15.18）は他の地区より多くなっています。県全体で4週続けて患者数が増加していますので、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第3週の報告数は298人で、前週より137人多く、定点当たりの報告数は6.77でした。地区別にみると県北地区（23.00）は、警報レベル開始基準値「10」を超えています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやサポウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

例年冬期に患者数が増加するのがノロウイルスによる胃腸炎です。乳幼児から成人に至るあらゆる年齢に感染します。また、ノロウイルスは食中毒の原因としても検出されるウイルスです。ノロウイルスに感染した患者の手指から食品を介して感染します。

手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

☆トピックス：梅毒の患者数が増加しています

長崎県では2023年に147件の梅毒の報告があり、現行の調査が開始されて以降、過去最多の報告数となっています。2024年は第3週までに7件の報告があがっています。2023年以降の報告を年代別にみると20代が全体の約4割を占めています。男女別にみると、男性では20代および30代、女性では20代が多くなっています。

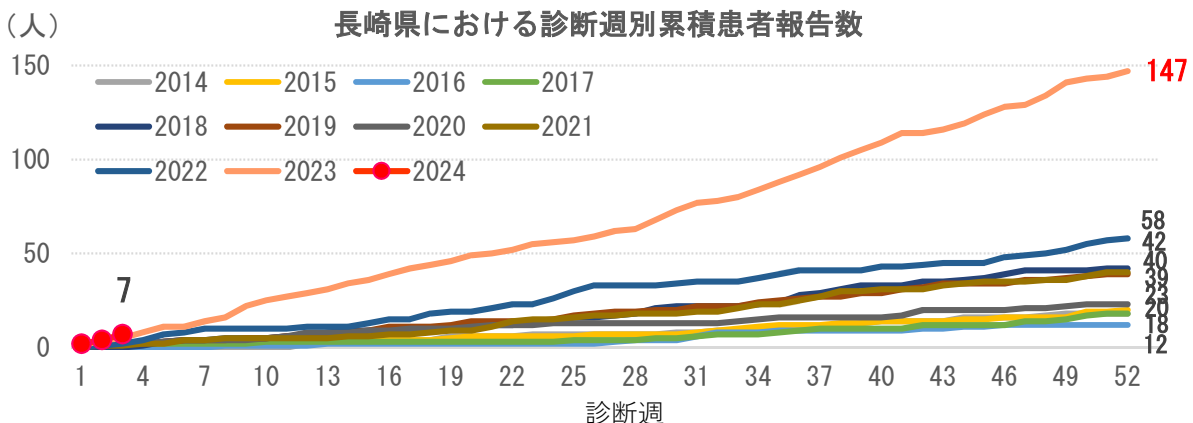
梅毒は梅毒トレポネーマの感染によって生じる性感染症で、感染者との粘膜の接触を伴う性行為感染や妊婦の胎盤を通じて胎児に感染する（＝先天梅毒）経路があります。

感染後3～6週間の潜伏期を経て、初期には感染部位の病変（初期硬結、リンパ節腫脹等）、続いて血行性に全身へ移行して皮膚病変（バラ疹や梅毒疹等）や発熱、倦怠感等の多彩な症状を呈するようになります。無治療の場合、感染から数年～数十年経過すると心血管梅毒、神経梅毒に進展します。

また、妊娠中に梅毒に感染すると、お腹の赤ちゃんに感染し、流産や死産の原因になったり、障害をもって生まれることがあります。妊娠早期に発見、治療すれば赤ちゃんに影響を与える可能性も低くなります。県内では、2023年に7名、2024年に1名の妊娠中の報告があがっています。

梅毒は早期診断、早期治療が重要ですので、感染が疑われる症状がみられた場合、感染の不安がある場合には、早期に医療機関を受診しましょう。また、県内の保健所では、無料の相談・検査を受けられます（事前の連絡・予約が必要）。感染を予防するには、コンドームを適切に使用することや感染のリスクとなる不特定多数の人との性的接触を避けることが重要です。

詳細は、[長崎県感染症情報センター「梅毒の発生状況」](#)に掲載しています。



☆トピックス：咽頭結膜熱に注意しましょう

第3週の定点当たり報告数は、1.84で、12週続けて警報レベルが継続しています。地区別では、県北地区（3.67）、県央地区（3.14）、長崎地区（2.30）、西彼地区（2.00）、佐世保地区（1.67）は警報レベルの報告数となっています。今後も予防に努めましょう。

本疾患は、アデノウイルスによる感染症で、発熱・咽頭炎（咽頭発赤、咽頭痛）および結膜炎を主症状とします。例年夏季に流行が見られますが、年間を通じて発生します。感染経路は、飛沫感染、手指を介した接触感染です。治療は対症療法となる為、感染予防が重要です。手洗いやうがいを励行しましょう。

★トピックス：インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

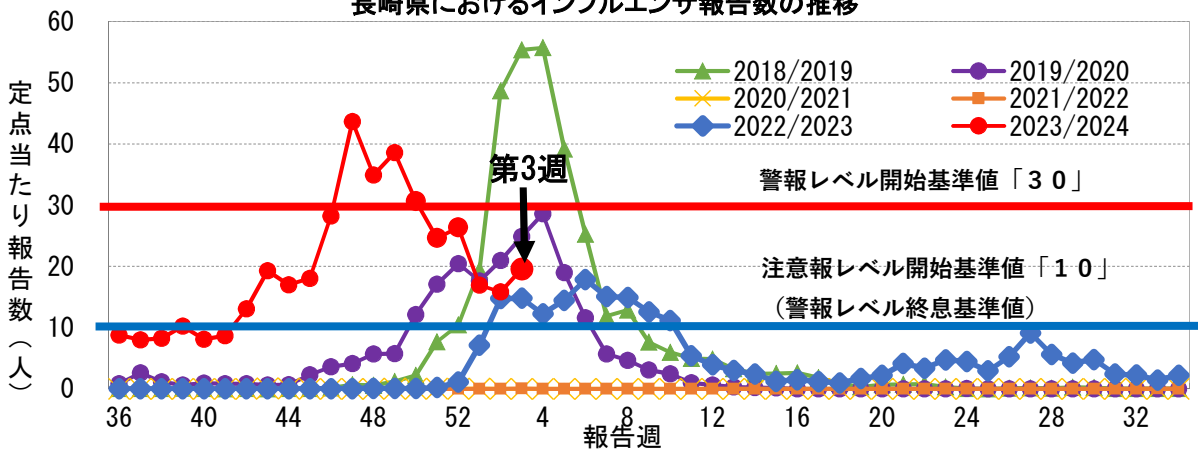
インフルエンザの2024年第3週の定点当たりの報告数は「19.60」で、前週より増加し、9週続けて警報レベルを超えた状態が継続しています。地区別にみると、10保健所中7保健所で警報レベル、2保健所で注意報レベルとなっています。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は「12.97」で、4週続けて増加しています。

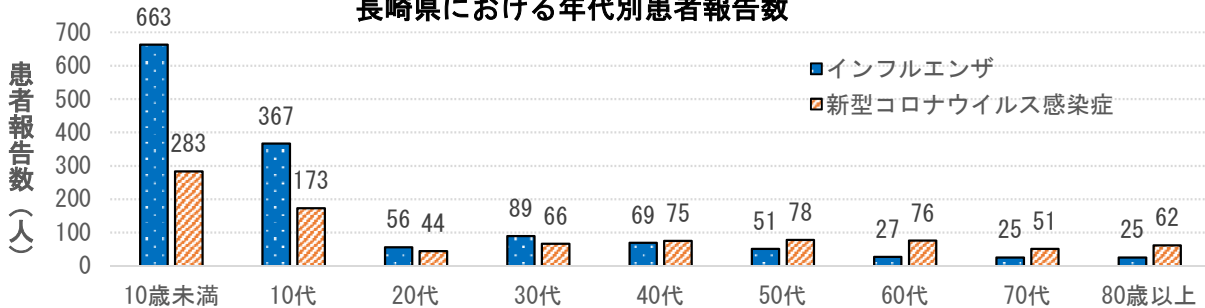
インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症いずれも10歳未満、10代において報告数の増加が続いています。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。インフルエンザワクチンは発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、かかりつけ医と相談のうえ、ワクチンを接種しましょう。

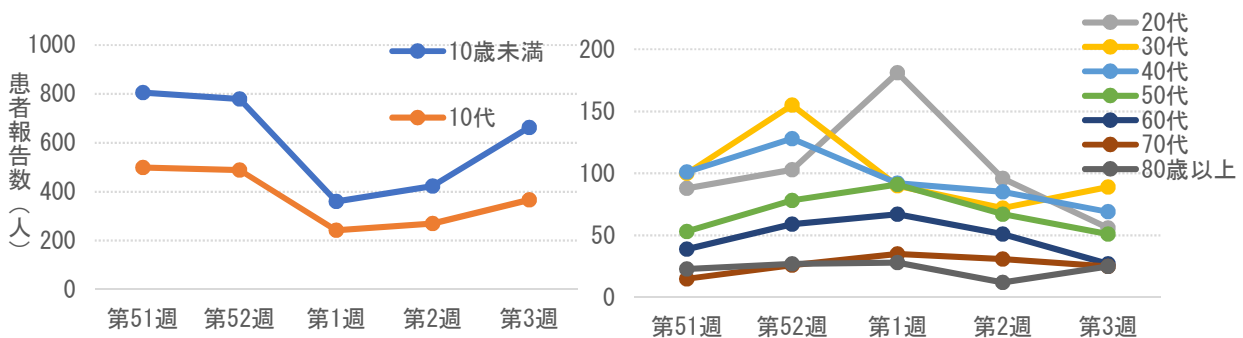
長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



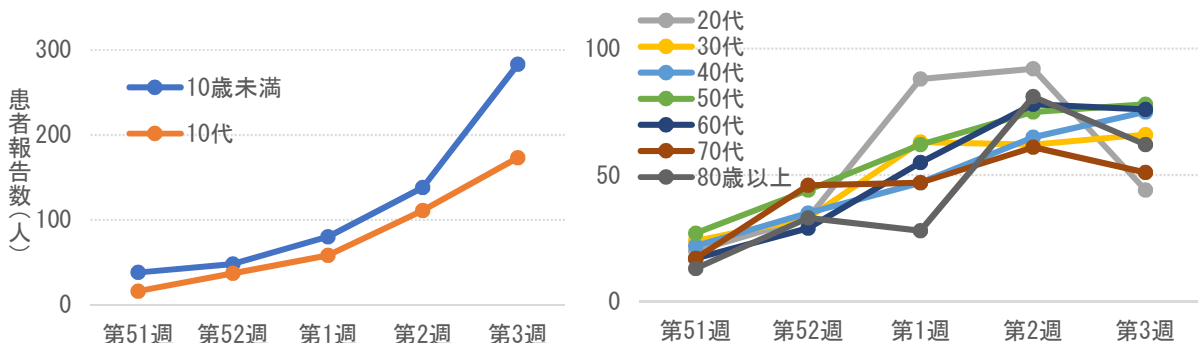
長崎県における年代別患者報告数



インフルエンザ年代別患者報告数の推移



新型コロナウイルス感染症年代別患者報告数の推移



☆新型コロナウイルス感染症の発生状況（2024年第3週：1月15日から1月21日）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2023年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が定点把握対象の5類感染症に変更されました。

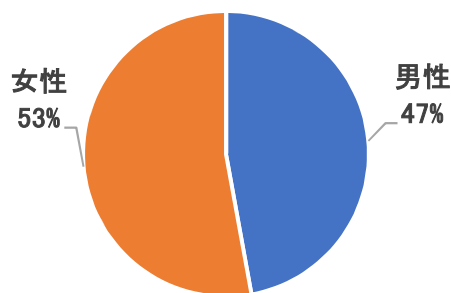
5月8日以降は、県内の人口等を勘案して選定された70医療機関（インフルエンザ/COVID-19定点）から、1週間（月～日曜）にCOVID-19と診断された患者数が週に1回報告されます。報告のあった県全体の患者数を集計し、本週報で毎週（原則木曜日）公表しています。

2024年第3週の新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は「12.97」で、4週続けて増加しました。

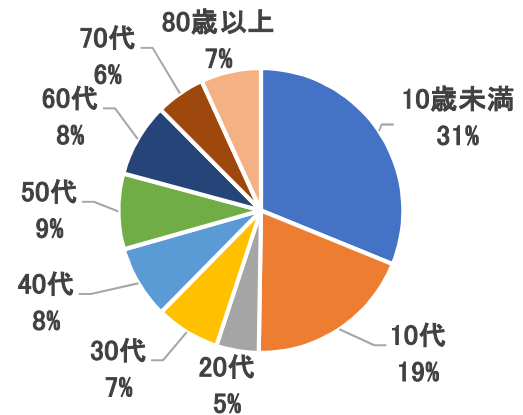
今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

	長崎県	長崎市	佐世保市	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	壱岐	対馬
報告数	908	258	112	75	177	92	82	42	37	16	17
定点数	70	17	11	6	11	8	4	4	3	3	3
定点当たり報告数	12.97	15.18	10.18	12.50	16.09	11.50	20.50	10.50	12.33	5.33	5.67

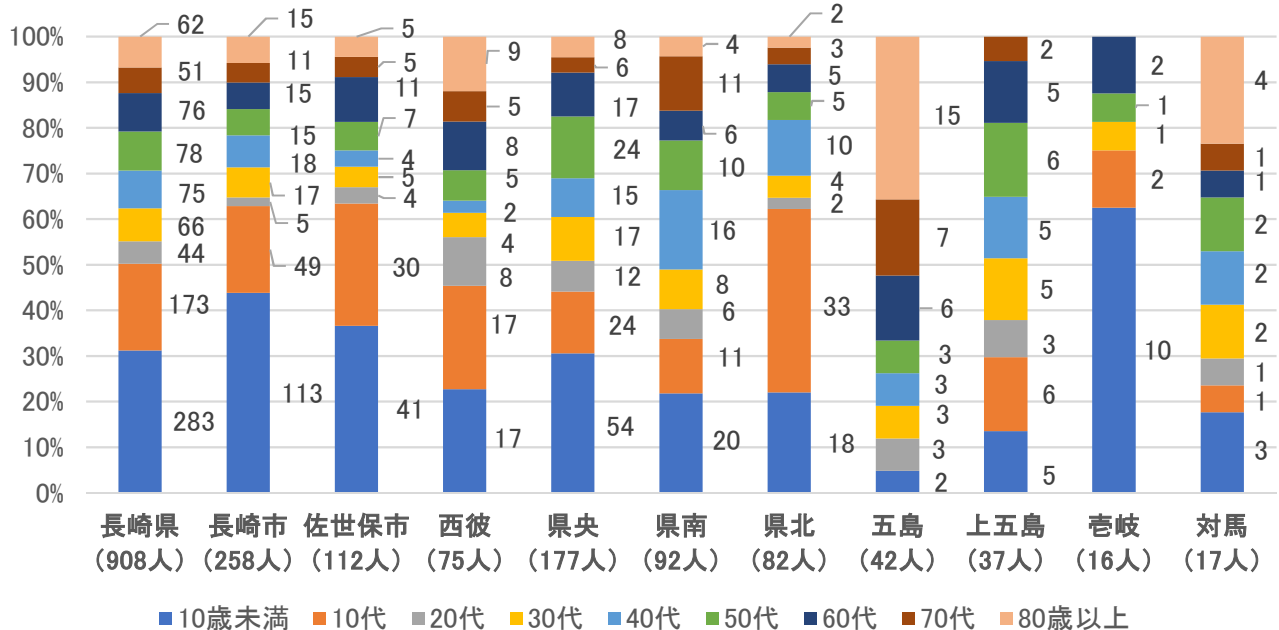
性別割合



年代別割合



保健所別年代別報告数



※年代別の報告数は、感染症発生動向調査における年齢区分の報告をもとに年代ごとに集計したものです。

◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（80代以上・1名） 女性（80代以上・1名）

3類感染症：報告なし

4類感染症：報告なし

5類感染症（全数把握対象）：侵襲性肺炎球菌感染症 患者 男性（50代・1名）
 水痘（入院例） 患者 男性（70代・1名）
 播種性クリプトコックス症 患者 女性（80代以上・1名）
 梅毒 患者 男性（60代・1名）
 無症状病原体保有者 女性（20代・1名、40代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第50～3週、12/11～1/21)

疾患名	定点当たり患者数					
	50週	51週	52週	1週	2週	3週
	12/11～	12/18～	12/25～	1/1～	1/8～	1/15～
インフルエンザ	30.67	24.63	26.36	16.94	15.81	19.60
新型コロナウイルス感染症	3.07	2.77	4.83	7.54	10.90	12.97
RSウイルス感染症	0.02	0.05			0.07	
咽頭結膜熱	4.07	4.14	3.75	2.52	2.59	1.84
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.95	3.23	2.80	1.45	3.00	3.70
感染性胃腸炎	4.93	4.30	3.52	2.84	3.66	6.77
水痘	0.11	0.09	0.02	0.07	0.14	0.09
手足口病	0.73	0.55	0.55	0.32	0.11	0.20
伝染性紅斑（リンゴ病）						
突発性発しん	0.25	0.20	0.16	0.16	0.14	0.11
ヘルパンギーナ	0.05	0.07	0.05		0.02	
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.05		0.02			
急性出血性結膜炎	0.13	0.13		0.13	0.38	0.13
流行性角結膜炎	1.50	1.50	0.75	1.38	2.00	0.88
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎	0.17			0.08	0.08	
マイコプラズマ肺炎			0.08	0.08	0.08	
クラミジア肺炎（わん病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.08					

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第3週、1/15～1/21) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	19.60	14.18	20.12	25.33	13.83	26.82	21.38	30.00	0.25	17.67	25.00
新型コロナウイルス感染症	12.97	10.18	15.18	5.33	12.50	16.09	11.50	20.50	10.50	12.33	5.67
RSウイルス感染症											
咽頭結膜熱	1.84	1.67	2.30	1.00	2.00	3.14	1.00	3.67			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.70	3.50	1.70	1.00	6.75	4.29	7.00	7.67	2.67		
感染性胃腸炎	6.77	12.00	4.70		4.75	9.14	5.40	23.00			
水痘	0.09	0.33			0.25	0.14					
手足口病	0.20		0.10		0.25	0.57	0.40				0.50
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.11	0.50	0.10			0.14					
ヘルパンギーナ											
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎	0.13						1.00				
流行性角結膜炎	0.88						5.00		2.00		
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎											
クラミジア肺炎（わん病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											